

# B-11 ナイロンストッキングの形態と下肢部形態の関係について

秋田聖霊短大　○豊間和子　加藤素子　帝塚山短大　田中道一

目的 前回において、ナイロンストッキングの消費性能の研究を行ひ、第一歩として、基本的な問題である編目構造の解析と物性について検討した。その結果、編目構造の解析は、実測による編目長は、一般に理論上による編目長より大きい傾向を示した。また市販の一資料の測定結果によると、ノンラン>フルファッション>ストレッチの順であった。ウエール数、コース数と編目長、編目密度と編目長間にはそれぞれ相関が得られた。今回は、ストッキング着用時に生ずる歪みとランの追求も検討するたための前段階として、人体下肢部の計測を行ない、着用時のストッキングの形態変化を数量的に検討し、取り扱い上の要素を追求する。

方法 試料は前回と同様、市販品の同一会社の製品で編み方の異なるもの3種類である。下肢部計測のための被検者は、年令18~19才の女子64名で下肢部の測定項目をプロトコールに調製した。計測にはマルチンの人体測定器を使用した。得られた計測値の各部位の値を、身長と体重を基準にしてそれぞれの相関関係を求めた。一方計測値から下肢部の表面積を算出し、ストッキングの面積との比較を行なった。

結果 下肢部の面積を求めたための測定項目については、身長を基準にした場合の長育項目に1%の水準において相関関係が得られた。また体重を基準にした場合は、面積および同育項目において1%の水準において相関が得られた。被検者64名の下肢部面積の1/2の平均値に対する各種のストッキングの面積割合の比較は、ストレッチ>ノンラン>フルファッションの順に、ストッキングの拡張率が大きい。